修学

夢窓疎石

一日の学問千載の宝
百年の富貴一朝の塵
一書の恩徳万玉に勝る
一言の教訓重き千金

【作者】夢窓疎石（一二七五～一三五一年）鎌倉末期・南北朝時代の禅僧（臨済宗）。伊勢（三重県）の人。姓は源、号は夢窓。禅宗歴代の高僧の中でも並外れた傑物で、実力者だった。後醍醐 天皇に召されて、二度南禅寺に入り、足利尊氏の天竜寺建立に開祖として迎えられた。
また、後醍醐・光厳・光明の三天皇から国師号を賜った。造園 技術にも優れ、西芳寺（さいほうじ＝苔寺）・天竜寺・瑞泉寺等の作庭にも偉才を見せた。

【語釈】＊千 載…千年。永遠。「載」は歳。 ＊富 貴…金持ちで身分地位が高い。 ＊一 朝…わずかな間。一時（いっとき）。
＊一 書…一冊の本。 ＊恩 徳…恵み。情け。 ＊萬 玉…多くの宝。 ＊千 金…非常に高価。

【通釈】わずか一日の浅い学問であっても自分の身につけば、永遠に宝となって残るが、逆に百年もの長い年月を経て蓄えられた財産 や身分でも、おろそかな心があればわずかの間にあとかたもなく消えうせる。意義ある一冊の書物から受ける恩徳というものは、多くの宝玉よりも貴重なものであり、師の一言の教訓は、千金の重さに値する。

【備考】この詩は学問・知識の大切さ、貴重さについて、自らの体験から述べたものである。